国語科学習指導案

呉市立呉中央中学校　　田中　康平

東広島市立豊栄中学校　西浦　瑞姫

熊野町立熊野中学校　　中村　友理佳

府中市立府中明郷学園　北郷　裕華

広島県立尾道特別支援学校　本畝　瑞歩

１　日　時　令和５年10月２日（月）第３校時

２　学　年　第３学年Ａ組　男子３名　女子４名　計７名

３　単元名　愛は時空を超える～複数の資料から自分の考えを形成する～

４　単元について

（１）単元観

本単元は、中学校学習指導要領（平成29年告示）国語第３学年の〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ読むこと(1)エの指導事項「文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。」を受けて設定した。関連する〔知識及び技能〕として(3)ア「歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむこと。」を設定し、単元を通して、「愛」というテーマで学習を進め、考えたことを伝え合う活動を行う。

「文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつ」ためには、教科書教材だけに留まらず、多様な文章と出会うことが必要となる。そのため、本単元では、和歌の学習と並行して、人間（愛）というテーマで読書を行い、そこから考えたことを学習に活かすことで、更なる資質・能力の育成に繋げたい。

本単元で扱う「和歌」は、手紙としての役割を果たした相聞歌をはじめ、死者を悼む挽歌や、宮廷や自然などについて歌った雑歌など、古来より日本人の生活に深くかかわってきた言語文化のひとつの形態である。三十一文字のなかに、人々は人間や社会、自然などについての様々な思いを託している。今回扱う「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」といった三大和歌集に収められている和歌は、このような強い思いを託された数多の和歌のなかでも、特に秀でているとともに、時代を超えて多くの人々に愛されてきたものである。このような和歌を学習し、そこに表れた「愛」を読み取って自分と比較することで、自分の考えをより広げたり深めたりすることに繋がると考えた。

（２）生徒観

　　令和５年度全国学力・学習状況調査において、読むことの平均正答率は90.0％（全国平均63.7％）であった。また意欲的に学習に参加し、粘り強く自分の意見を伝えようとする姿がみられる学級である。９月に実施した授業アンケートでは、以下のような結果が得られた。

|  |  |
| --- | --- |
| 質問 | 回答 |
| 読書が好きである。 | 肯定的回答 　40％ |
| 一か月に読む本 | 一冊未満 　40％ |
| 私は人間、社会、自然などのさまざまな問題について、自分の意見をもっていると思う。 | 肯定的回答　100％ |
| 私は文章を読む時、そこに表れた考え方を自分の考え方と比較して、自分の考え方を広げたり深めたりしている。 | 肯定的回答 80％ |
| 私は古典を学習する時、舞台となっている時代の様子や作者が置かれていた状況を踏まえて読んでいる。 | 肯定的回答 60％ |

　　本単元の実施にあたって、本学級の生徒は、自分の意見をもっているが、それはあくまで自分の中でのものであり、読書などの方法で多様な文章に出合い、先哲の意見と結び付けて自分の考えを広げ深めていくことに課題があることが分かった。また、古典を学習する際、舞台となっている時代の様子や作者が置かれていた状況といった歴史的背景を踏まえて読めていない生徒が40％いることも分かった。

　　古典や韻文の学習では、１年生で現代詩と「伊曽保物語」「竹取物語」、２年生で現代短歌と「枕草子」「徒然草」「平家物語」、３年生で現代俳句などを学習した。歴史的仮名遣いや表現技法といった知識及び技能の習得は繰り返し学習して概ね身に付いている。その一方で、歴史的背景に着目して学習を行ったのは、島崎藤村「初恋」が初めてであり、定着しているとは言い難い。以上のことより、歴史的背景について調べたり、並行読書を行ったりする中で、他者の考えと自分の考えを比較しながら、自分の考えを広げ深めていく必要があると考えた。

（３）指導観

　　指導に当たっては、確実な資質・能力の育成を目指して、次のような指導の工夫を行う。

①映像資料や各種図書資料の活用（学校司書によるレファレンスサービスの活用）

　　和歌に読み込まれた作者の思いをより深く、広く理解するためには、和歌の舞台となっている時代の様子や作者が置かれた状況などの歴史的背景を踏まえて読む必要がある。歴史的背景を踏まえさせるために、映像資料や、国語科資料集、図書室の各種図書資料の活用を行う。安易にインターネットの記事に頼るのではなく、学校司書によるレファレンスを受けながら複数の図書資料から情報を集め、参考資料の出典も明記するよう指導を行うことで、第１学年〔知識及び技能〕(2)イの事項の定着も図りたい。

②自分の考えの変容を蓄積する振り返りシートの活用

　　本単元では、「愛」というテーマについて、和歌の学習とともに並行読書等を行いながら、適宜自分の考えを深化させながら、自分の考えを広げ深める力の育成を目指している。そのため、自分の考えの変容を蓄積していく手立てを講じる必要があると考えた。そこで、授業前に自分の「愛」についての考えや、和歌の学習や並行読書で読み取った「愛」についても、一枚のワークシートにまとめさせながら、適宜蓄積し、自らの考えの変容を認識しやすくすることで、育成を目指す資質・能力の育成の一助とする。

③並行読書に向けた選書リストの提示と読書コーナーの設置

　　本学級の生徒は、１年生の頃から読書冊数が他学年に比べ少なく、読書に親しみをもっているとは言い難い。自らの考えを広げたり深めたりする読者を育成するためには、良質かつ多くの本と出合わせる場面を工夫する必要がある。そこで本単元では、単元のはじめに「愛」というテーマで並行読書を行うことを生徒に伝えるとともに、授業者が推薦する選書リストを提示する。また、学校司書の協力を得て、教室前に「愛」読書コーナーを設置して生徒の目に入りやすくすることで、読書意欲を喚起するよう、意図的な学習環境構成をする。

５　単元の目標

・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。

〔知識及び技能〕（３）ア

・文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。　　　　　　　　　　　　　　　　　　〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ（１）エ

・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。　　　　　　　　　　　　　　「学びに向かう力、人間性等」

６　単元の評価規準

|  |
| --- |
| 詩歌や小説などを読み、考えたことなどを伝え合う活動を通した指導【言語活動例　Ｃ読むこと（2）イ】 |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。（（３）ア） | ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。（Ｃ読むこと（１）エ） | ・進んで自分の意見をもち、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。 |

<評価の具体及び手立て>

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 評価規準【「おおむね満足できる」状況（Ｂ）】 | 「努力を要する」状況（Ｃ）と判断した生徒への指導の手立て |
| 思考・判断・表現 | 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 | ワークシート【Ａ：来むと言ふも来ぬ時あるを来じと言ふを来むとは待たじ来じと言ふものを】　この和歌の作者である大伴坂上郎女をはじめ、当時の女性にとっての愛は「男性の訪れを待つ」ものであった。当時の婚姻は、男性が女性のもとに通う「通い婚」が主であった。男性は複数の女性のもとに通うこともあり、必ずしも毎夜訪れるとは限らない。そのため、女性は男性の訪れを待ち続けることになる。訪れない男性への唯一の意思表示の手段が、相聞歌であった。この歌の作者も、全ての句の頭に「来」という音を繰り返すことで、「来る／来ない」という男性の訪れを気にする女性の心情が強調されている。【Ｂ：夢十夜　第一夜】　「夢十夜　第一夜」での愛は、「生死を超えた繋がり」である。「夢十夜　第一夜」は、夢を題材にした物語で、もう死んでしまうから自分の墓の隣で百年待っていてくださいと言う女性を待ち続ける「自分」の姿が描かれている。死んだ女性を弔い墓の前で待ち続け、最終場面で、自分の前に咲いた白百合を見て、「百年はもう来ていたんだな」と気付く点から、「自分」は生死を超えて女性と再会できたことがうかがえる。このことから、死別してなお百年待ち続ける愛の深さと、生死を超えた二人の繋がりが感じられる。【Ｃ：自分の考えの変容】　私は、愛とは「ドキドキするもの」だと考えていた。好きな人に送ったＬＩＮＥの反応に一喜一憂し、返信が遅いとしびれを切らして更にＬＩＮＥを送ったり、時には相手を責めるようなことを言ったりしてしまうこともある。　ＡとＢの共通点は、「待つ」ことである。それぞれの事情は違うが、相手のいる恋愛だからこそ、時には「待つ」という状況が発生する。大伴坂上郎女の歌からは、責めるような言葉の外ににじみでる期待の気持ちに、待つ女性の可愛らしさを感じた。また、「夢十夜」からは、相手を信じ、尊重して、ひたすらに待つ愛情があることを知った。私も、責めるばかりではなくもっと伝え方を工夫したり、相手を尊重して気長に待つ余裕を持ったりしなければならないと思った。　愛とは、「尊重」であり、「余裕」なのだと思った。 | 【和歌】・和歌に関連する歴史的背景をまとめたノート記述や資料を確認するよう促す。【並行読書】・対話を通して、作品の中で「愛」に関連する部分を確認させ、それについて、生徒の言葉で説明させる。【考えの変容】・和歌と並行読書のそれぞれの「愛」への捉え方（考え方）を整理させる。・対話を通して、ＡとＢの二つの作品を読んで変化した「愛」への考え方を生徒の言葉で説明させる。 |

７　指導と評価の計画（全８時間）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 次 | 時 | 学　習　内　容 | 評　　　価 |
| 知 | 思 | 主 | 評価規準・評価方法等 |
| 一 | １ | 【導入】愛とは…・「愛」についての自分の考えを記述する。・選書リスト、言語活動を提示する。・「ずーっとずっとだいすきだよ」を読んで「ぼく」にとっての「愛」について記述する。 |  |  |  |  |
| 二 | ２～５ | 【Ａ：和歌の学習】・和歌の基礎知識について学　習する。（三大和歌集、修　辞技法、時代背景につい　　て）・それぞれの担当の和歌につ　いて調べ、作者にとっての　「愛」について記述する。・和歌の学習と並行して、並　行読書作品の読書報告など　を行う。（振り返り：自分の考えとの相違点） | 〇 |  |  | 〔知識・技能〕　ワークシート・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。 |
| ６ | 【Ｂ：並行読書】・並行読書した作品の中か　　ら一作品を選び、その作品　に現れた「愛」について記　述する。（振り返り：自分の考えとの相違点） |  |  | 〇 | 〔主体的に学習に取り組む態度〕　振り返り・生徒の様子・学習課題に沿って自分の意見をもち、進んで考えたことを伝え合おうとしている。 |
| ７ | 【C：自分の考えの変容】・自分の考えの変容を記述す　るのにふさわしい和歌や並　行読書の作品が選べている　のか推敲させる。・自分の考えと和歌や並行読　書の作品を比較し、自分の　考えの変容を記述する。 |  | 〇 |  | 〔思考・判断・表現〕ワークシート・文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。 |
| 三 | ８ | 【交流・まとめ】・交流会　質疑応答・まとめ（発表を通して考えたこと／学習を通してできるようになったこと） |  |  |  |  |

８　本時の学習

（１）本時の目標

　・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。

〔知識及び技能〕（３）ア

（２）学習の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習活動 | ◇指導上の留意点・「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て | 評価規準と評価方法 |
| １．前回までの学習内容を振り返る。（10分）２．学習した和歌の中から一首選び、そこに表れた「愛」について考える。（5分）３．考えた内容を説明し合う。（15分）４．条件に合うように、和歌に表れた「愛」について記述する。（15分）５．学習の振り返り（5分） | ◇現在読んでいる並行読書作品について簡単に報告させる。（１～２名）◇前時までに整理したスライドを参照させる。◇歴史的背景を踏まえて記述することを確認する。・歴史的背景を踏まええられない生徒には、必要に応じて関連書籍を参照させる。◇構成メモを作成させる。◇構成メモをもとに班で伝え合わせる。◇伝え合った内容をもとに、必要なキーワードを追記させる。◇ドキュメントを活用する。◇条件に合う文章になるよう意識するために、書いた文章は条件に応じて色を付けさせる。・言語化が難しい生徒には、作文の枠を提示して記述させる。◇和歌に表れた「愛」と自分の考えとの相違点について記述させる。 | めあて　選んだ和歌に表れた「愛」について記述することができる。〔知識・技能〕ワークシート・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。 |

（３）板書計画



※この他、電子黒板に適宜作業用ドキュメントなどの画面を提示する。